

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「共に暮らし生きることへの支援」を理念にかかげ人と人とのつながり、支え合いを大切に一人の住民として地域とのかかわりを持っている。	○	玄関に理念を掲示しているので、常に目視することで、確認出来るようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、ホームの理念を説明し、共有できる人材を採用している。また、毎月行われる職員会議やカンファレンスでは、理念に沿ったケアを実践できるように話し合いを行っている。	○	採用後、研修資料に基づいて、理念及び介護方針について取り組んでいる。必ず著書「大逆転の痴呆ケア」・和田 行男氏を読み、ケアのあり方を共有している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で地域の住民やご家族に、理念を伝え理解して頂いている。また、毎月ホーム便りやお知らせ郵送し、地域便りは、2ヶ月に1回発行している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、地域便りも回覧している。常会長・民生委員が、町の行事も教えてくださった。近隣からは、野菜なども気軽に持って来て頂いている。また、地域の祭りや運動会には、積極的に利用者と共に参加している。ホーム敷地内の足湯は、近隣住民がいつでも楽しめるように開放しており、利用者との交流を持っている。行事以外にも地域からの慰問があり、踊りや歌等を披露してもらうことや小学生が遊びに来たり、交流を図っている。	○	ホーム周辺での散歩中や買い物をしている時など、気軽にあいさつ・会話している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、サービスの見直しと質の向上に努めている。個々の大きく違う箇所は全職員で話し合い作成した。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。その都度日々の利用者の暮らしぶりや家族からの心配事等への意見交換や認知症や感染症の勉強会も行っている。職員は議事録を閲覧し、要望や意見についての話し合いを行い次回の推進会議で報告している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回市町村担当者へ地域便りを配布し、内容についての意見を求めている。推進会議には毎回参加され、意見交換やアドバイスを頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。	○ 2ヶ月に1回配布、町内の掲示板3箇所と鶴泊の駅(五能線)に掲示させて頂いている。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、権利擁護と成年後見制度について学習し職員会議で報告会を行っている。実践に向け理解を深める様取り組んでいるが、まだ十分とはいえない。	○ ホーム内での勉強会を開催するなど、職員の知識の向上を図り、家族や地域の方々にも、情報提供していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、内部研修で具体的な内容をマニュアル化し、全職員が確認・理解を深めている。管理者や職員は日々の言葉掛けや態度についてお互い十分注意し合い、ケアに取り組んでいる。	○ 職員は声掛け・声のトーン・表情にも注意を払っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、医療連携体制の説明や、リスク管理、緊急時の対応方法など詳しく説明し、また利用者・家族からの意見を伺っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話の中で要望や意見があった場合は、全職員で話し合い、改善するよう取り組んでいる。	○ 利用者や家族からの意見や要望については、運営推進会議でも公表しながら、継続していく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回のホーム便りで担当職員が現在の状況報告し、緊急時には電話連絡している。また、金銭管理については個々の出納帳があり、金銭の出し入れを詳細に記録し領収書を添付の上、毎月家族に報告・確認して頂いている。	○ 御家族の来訪時には、状況報告し、要望や意見を聞いている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画更新時、ご家族からの意見を伺う為の用紙を同封している。新介護計画については来所できない場合は電話連絡にて説明・近況報告を行い、希望や要望等を伺う為の機会を設けている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見や要望を聞くようにし、職員から話しやすい雰囲気づくりに配慮している。職員会議やリーダー会議で意見を反映できるよう、話し合っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の人員確保ができるようにローテーションを組んでいる。両棟で連絡し柔軟に対応できるよう職員数を活動に合わせ調整している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、必要最低限度とし、顔なじみの職員によるケアに努めている。外出活動や、系列施設合同によるレクリエーションが多い為、全職員が顔なじみの関係をつく様努力している。	○	新しく担当になった職員は、家族に説明し、報告している。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の必要性を十分認識し、県内のみならず都心での研修に積極的に参加させレベルアップを図っている。パート職員にも研修は同様に行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県、西北五グループホーム協会に加入し研修に参加し、意見交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。研修内容は報告書を作成、全職員が周知するように努めている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が休憩できる場所が確保されている。日頃から施設長やリーダーが職員の悩みや相談を聞くように努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が東京在住であるため、月に1・2度出社し、利用者や職員とのコミュニケーションを図っている。日頃は、施設長をはじめ職員から電話で状況を確認し、把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>○初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前の本人・家族の相談を聴き入れ、聴く機会を設けている。不安や要望を汲み取りながら、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	
22	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在のサービス利用状況を確認し、相談に応じている。その上で、ホームでの生活を希望し、必要とする場合は、本人・家族の意向に沿うような対応に努めている。また待機中の御利用者様には、随時電話で状況を伺うようにしている。</p>	
23	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在の本人・家族の状況を確認しながら、自宅訪問し顔なじみの関係を築き、安心してホームでの生活が送れる様、本人と家族との話し合いが持たれている。また、入所時には本人の好きな食事を用意している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中から、利用者への一方的な関係ではなく相互的な関係作りをしている。利用者同士で食後の下膳をしあえるような座席工夫をすることにより、相互的な関係作りをしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常的全てにおいて、出来事や気付き情報等を担当職員からのお知らせや新聞で報告し、喜怒哀楽を共感し、家族共に支援できるように努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い・家族の思いを受け止め両者の思いを理解し、よりよい関係が保たれるように支援している。	○	本人や御家族のよりよい 架け橋になれるように声掛けや会話には、十分配慮している。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所に気軽に行けることよって、入所前の継続的な支援に心がけている。	○	本人の希望が聞かれた際は、御家族の了解を得て行きたい場所へ一緒に出掛けている。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の日々の変化や関係に留意し、職員も話し合い、孤立しないような対策を考え情報の共有に努めている。心身の状態や気分や・感情で変化することもあるので、小さな変化も見逃さないように注意しながら支援している。	○	職員は利用者同士の関係を把握し支えあって暮らしていけるように支援している。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時のお見舞いや洗濯物を手伝うなど、継続的な交流を図っている。また、退院後も状況により相談を受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で言葉・態度・表情から、本人の意思を汲み取りながら把握している。要望に対しては、すばやく対応出来る様心がけている。意思疎通が困難な場合は表情や動作で把握したり、家族から情報を聞くようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り、自宅訪問し、生活環境の把握に努めている。また、本人や家族・事業所からの情報を収集し、気づいたことや意向を反映させたサービスに努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活のリズムを理解し、心身状態等の変化もケースに詳細に記録し、職員が把握出来る様努めている。	○ 出来る事を押し付けるのではなく積極的に行って頂ける様支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を十分に聞き、反映出来る様に全職員で意見交換し、介護計画を作成している。作成した後は、家族に確認して頂き同意を得ている。一人暮らしの方は、社協や病院等から情報を得、本人の意向に沿った計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画について評価を行い、3ヶ月に1回計画を見直している。また、カンファレンスは状況に応じて随時行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成、身体状況・水分・排泄及び通院内容や日々の様子を記録し、全職員が確認・把握している。業務引継ぎ前の申し送り時に確認を徹底している。	○	ケアプランに反映できる記録に取り組んでいる。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じて通院や送迎等必要な支援に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域との協力態勢をとり、ボランティアの方に協力を呼びかけ訪問して頂いている。消防訓練時は、消防署へ依頼し参加して頂いている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所のサービスの利用は受けられていない。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加され、情報交換やアドバイスなど協力を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>当ホームからの入退所時は、相互の情報提供を通じ意見交換を行い、ダメージ防止や今後のケアに反映している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護法・プライバシーの保護について内部研修をしており、職員は周知している。利用者を常に尊重し誇りやプライバシーを損ねないケアを徹底している。個々のファイルケースは事務所に保管している。各リーダーは、日頃の関わりの中で、職員に指導や助言を行っている。</p>	○	<p>利用者に対する声掛けや対応についてはその都度改善している。</p>
<p>48</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>適切な対応・声掛けができるよう支援体制を整えている。意思疎通が困難な方へは、本人の表情やしぐさから確かめたり家族からの情報で、希望や好みを確認している。</p>		
<p>49</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の希望を優先しつつ、その日の体調や気分に沿って過ごせるように配慮している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの理容店に行ったり、季節や天候に合わせて服装を自分で選べるように、さりげなく配慮している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の食事委員会では、食に関する知識向上を目指している。又、調理や盛り付けを職員と一緒にいき、同じテーブルを囲み会話しながら、楽しく食事できる雰囲気作りに努めている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事会議では、食事状況について検討しながら、個々の嗜好を把握し、メニューに反映し状況に合わせて楽しめるようにしている。職員は苦手なものや嗜好がわかるように一覧した表で把握している。	○	ショッピングで購入した嗜好品は、食事時に添えている（筋子・塩辛等） 日々の会話の中で、食べたい物を聞いている。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握すると共に、その状況に応じた時間を見ながらトイレ誘導し、トイレで排泄できるように働きかけている。	○	月1回の排泄委員会では、下痢や便秘薬に頼らない排泄等について検討している。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉棟の設置により、毎日利用は可能であるが、利用者の希望や体調に合わせてながら、ゆっくり気持ちよく入浴出来る様支援している。又、入浴委員会では御利用者 ひとりひとりの入浴アセスメント表を作成している。	○	月1回の入浴委員会では、体重・皮膚疾患等についてもチェックしている。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を増やし、買い物やドライブに出掛けたり、ホーム敷地内の散歩・温泉に行くなど体調に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の家事や野菜の収穫・山菜の下ごしらえ等今までの経験や知恵が発揮できるよう支援している。天気の良い日は利用者と相談しながら出掛けたりなど、日々の生活に楽しみを作っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、お金を所持し、自由に買い物ができるようにしている。管理が出来ない方は、買い物の際に財布を渡して支払っていただくなどの工夫をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や一人ひとり気分によって日常的な散歩・買い物・ドライブ等気分転換を図っている。一緒に出掛けた時は、希望によって外食したりしている。	○	御利用者様にとって記念日や特別の日等、食事に出掛けたりしている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	予め予定を立てて、墓参りや寺への参拝など、個別に対応している。また、家族との外出は、日常的に行われている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人の希望時には、家族・友人に電話や手紙のやり取りをしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の都合に応じた対応をしている。食事時間をはさんでの訪問には、利用者の居室で一緒に食事を楽しんで頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、全員が周知し、身体拘束は行わない方針のケアをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>年2回の夜間想定と毎月15日、避難訓練を行っている。また緊急対策としてAEDの設置も消防署と話し合いの上で、検討していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとり状態により活動や自由な外出によっておこりうるリスクについて家族へ説明し、理解を得ている。	○	利用者の状況変化に応じて職員間で話し合い見直しを行っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や表情の変化など異変に気付いた際は、ずばやくバイタルチェックを行い、看護師への報告、指示を受け対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の副作用等・変更の情報の確認を共有し、症状の気付きに努めている。状態変化が見られたときは、看護師と連携して、医療機関へ報告している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトの提供したり、体を動かす機会を作ったり、出来る限り、自然排便できるように取り組んでいる。	○	排泄委員会が月1回の会議を行い、全職員がご利用者様の排泄パターンを把握しケアに取り組んでいる。(排泄チェック表を活用)
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きは、本人の力に応じて、支援・介助し、清潔に保てるように努めている。	○	本人も義歯洗浄剤による洗浄を行っている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を確認できるよう記録し、全職員が状態や好みの情報を共有、把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成し、ホーム内で研修を行い必要に応じて見直し、予防・対策に取り組んでいる。毎年インフルエンザの予防接種を実施している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の徹底、毎日食器・まな板・ふきんはハイター消毒し、冷蔵庫・戸棚の掃除も行っている。各棟に調理師を配置している。	○	食品衛生管理者の研修等にも参加し、食材の管理・食中毒の予防を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	見慣れた田んぼや畑に囲まれ季節感にあふれ、ホーム敷地内には足湯があり、地域の方々が気軽に来訪して頂けるよう親しみ感が持たれている。また、施錠はしていない。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや各居室の天窓の開放で、程よい換気が出来る。また、床暖房で暖かく過ごさせている。居室や廊下に絵を飾ったり、掲示物も季節感を感じられる物にしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こあがりの和室とテラスがあり、一人になりたい時や、仲の良い利用者同士でくつろげる場所として利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、写真や花・日用品等の使い慣れた物 を持参して頂き、利用者の意向に沿って落ち 着いて過ごせるよう配慮している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気は随時行っているが、各居室に温度・湿度計 を置き、利用者の状況に応じて、温度調整を している。また、一人ひとりに合わせて、衣 類調整をしている。巡回式の換気設備も設 置されている。	○	ホールには空気清浄器・加湿器を設置している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者が身体機能を生かした生活を送れる様 に、必要な箇所には手すりを付け、トイレ には安定した座位保持がとれるファンレス テーブルの設置等で住居環境を整え、安全 ・自立への配慮に努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	個々の状況に合わせて不安や心配が生じな いよう、声掛け・見守りしながら支援し ている。不安や混乱を招くような環境の 原因が見られた時は、職員で話し合い改 善に努めている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	ホーム内には、あずまや・テラス・温泉棟 ・足湯が有り、食事やお茶など楽しみな がら、活用している。畑には野菜や花を 栽培して、一緒に収穫を楽しんでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ホーム敷地内には、昔から馴染み深い温泉があり、いつでも利用者の希望時に利用して頂いている。大浴場には個浴が設置しており、片麻痺の方も肩までゆっくりつかり入浴を楽しんで頂いています。
- ・足湯・あずまやは地域に開放しており、利用者と地域の方々と一緒に利用し、交流が持たれています。
- ・自宅から見えていた岩木山が、ホームからもまっすぐ眺めることができ、四季を感じ取れることができます。
- ・和室はこあがりになっており、利用者のくつろげるく空間として活用しています。
- ・月一度の合同レクを実施、その他本人の気分や天気の良い日は、ドライブ・買い物など出掛けるよう働きかけています。
- ・大きな行事の中でも納涼祭・敬老会・忘年会は行政や社協・地域の方々を招待し、歌や踊り・出し物に大変盛り上がっている。・町内の行事にも参加、仮装行列で盛り上がっている。
- ・全職員が県内外の研修に参加し、全職員のレベルアップを図り、自立支援の実践に向け日々取り組んでいます。
- ・排泄・浮腫・入浴の委員を構成し、月1回の会議内容を全職員に報告・確認し、意見交換しながら、日々のケアに取り組んでいます。